

留学プログラムにおける e ポートフォリオの運用とアセスメント

Operation of E-portfolio and Its Assessment in a Study Abroad Program

カッティング美紀^{*1,*2}

Miki CUTTING^{*1,*2}

^{*1}立命館アジア太平洋大学

^{*1}Ritsumeikan Asia Pacific University

^{*2}熊本大学大学院教授システム学専攻

^{*2}Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: cutting@apu.ac.jp

あらまし：学びが多面的で、かつ遠隔で実施される海外プログラムの成果研究は容易ではない。eポートフォリオは、そのような海外での学びのエビデンスを収集できるツールとして期待されている。本学の短期留学プログラムでは、eポートフォリオを運用した学びの可視化と成果研究を行っている。本稿では、本学における留学前から帰国後までのeポートフォリオの運用とアセスメントの実施について述べ、帰国後のポートフォリオの分析から得られた結果を報告する。

キーワード：eポートフォリオ、留学プログラム、振り返り、アセスメント

1. 留学プログラムの質保証の課題

近年、グローバル教育推進の流れを受け、高等教育では、数多くの海外プログラムが提供されている。しかし質保証の観点においては課題が多い。質を保証するには、学習アウトカムを設定し、到達に繋がる学習支援を提供し、アセスメントを実施する必要がある。しかし留学プログラムの学習成果は、多面的かつホリスティックであり、学習成果の特定や明確化が容易ではない。さらに海外での学びのエビデンスをどう収集するかという課題もある。

このような留学プログラムにおけるアセスメントの課題に対しては、学びを蓄積できるeポートフォリオの活用が有効だ⁽¹⁾とされている。本学の短期留学プログラムでは、2012年度からeポートフォリオを運用し、留学における学びの質保証の研究を行っている。

2. 留学ポートフォリオの運用

本学の短期留学プログラムは、2, 3回生を中心に20名前後が参加し、アメリカに2か月留学する。このプログラムでは、留学前(国内)→留学中(海外)→帰国後(国内)と、eポートフォリオを継続的に運用するコース設計となっている。

2017年度のeポートフォリオの運用は以下の通りである：

留学前

- ・留学における自己目標の設定
- ・リフレクション練習と意義の理解
- ・英語や現地調査などの課題
- ・ラーニングコミュニティの形成
- ・アンケート(意識調査など)

留学中

- ・日々の学びのリフレクション
- ・コース目標の自己アセスメント

- ・留学中間の振り返りと目標再設定
- ・帰国後
- ・留学における学びと成長のレポート
- ・ショーケースポートフォリオの作成
(留学ポートフォリオの読み返しと成果物の選定)
- ・ショーケースポートフォリオの相互評価

留学中の日々の学びの振り返りは、経験学習⁽²⁾の理論に基づき以下の通りである⁽³⁾：

- ・その日の経験を振り返り、気づきと学びを記述
- ・学びを応用するための目標設定
- ・実践後の自己アセスメント

参加学生は、留学中、学びの振り返りをeポートフォリオに毎日記述できるようになっている。学生の記述は任意であるが、日々の提出率は非常に高い。

本プログラムでは、留学中の学生をeポートフォリオで支援するため、「ピア・アドバイザー(PA)システム」を設けている。これは研修を受けた前年度プログラム参加生がPAとして活動し、留学中の学生の日々の振り返りに対してフィードバックを書き、留学中の学生の学びを支援するものである。

またアメリカの現地大学の教員も同じeポートフォリオを運用しており、派遣側と受け入れ側の両サイドの教員が、同じポートフォリオ上で学生の支援を行っている。

3. アセスメント

3.1 留学ポートフォリオのアセスメント

本プログラムでは、留学ポートフォリオを運用することで、留学中に学生が何を悩み、どんな挑戦をし、何を得ているのか、一人ひとりの学びと成長のプロセスを可視化・蓄積している。またコース目標に対して定期的に自己アセスメントを行っており、

各コース目標に対する学びのエビデンスを蓄積させている。帰国後は、これまでの留学ポートフォリオを読み返し、留学における学びと成長を振り返り、各コース目標における成果をショーケースとしてまとめる。

3.2 アウトカムの特定

しかし先述の通り、海外プログラムにおけるアウトカムは多面的であるため、アセスメントを実施する際に必要となるラーニングゴールの特定は容易ではない。そこで、まず本プログラムは、2012年度の留学中の学生の学びの振り返り記述を分析し、プログラムにおける学びの分析を行った。その結果とその後のアンケート調査などをもとに、アウトカムの改訂を行って来た。2014年度には、アメリカの派遣先大学の研究者チームと共に、ルーブリックを運用してポートフォリオの記述を分析し、学びの到達度を共同調査した。そして、これまでの分析を踏まえ、コースのアウトカムを2大学で話し合い、アウトカムの再設定を行った。⁽⁴⁾

3.3 学生の認知した学びの分析と結果

2017年度は、再度、プログラムにおける学びを調査するため、全学生が帰国後にポートフォリオに書いた留学での学びと成長のレポートを分析した。この分析では、学生が留学で得たと認知した学びを抽出し、構造化することを目指した。MAXQDA ソフトウェアを用いて、全学生が記述したレポートから、学びと成長に関するセグメントを抽出し、コーディングを行った。次にカテゴリーにまとめ、構造化を図った。

この結果、授業関連の学び（自己発信、アメリカ社会の理解、ボランティア、授業への慣れなど）、他者・仲間（チームワーク、仲間からの学び、仲間の大切さなど）、スキル・資質（英語、コミュニケーション、振り返りなど）、視野の拡大（日本への理解、視野の拡大、ステレオタイプへの意識、アメリカ生活での学び）、自己（自信、自己理解）、他者影響・貢献、今後への意欲・将来ビジョンというカテゴリーを生成した。

次に、学生の認知したこれらの項目が、プログラム目標と合致しているか照合を行った。プログラム目標は、英語での発信力、英語アカデミックスキル、英語コミュニケーション力、異文化間コミュニケーション力、多角的視野、他者との協働力、自分らしい社会貢献、自己向上力であり、これらをコードカテゴリーと照らし合わせた結果、全目標項目が、抽出されたコードカテゴリーと合致した。この結果からは、プログラム目標と学生の認知した学びが重なっていることが示唆される。この学生の学びとプログラム目標の合致は、e ポートフォリオやアンケートの分析、観察、聞き取りなどから、留学プログラムの目標を数年に渡り特定・改訂してきたからではないかと推測される。

3.4 学びの関連性

次に、学生のレポートでは、全体的に自己発信と自信について多く書かれていたため、学生がアメリカで意識的に挑戦してきた「自己発信」が「自信」に関連しているのではないかと仮定し、MAXQDAを用いて、「自信」と「自己発信」の関連性を調べた。

「自信」の語彙検索を行った結果、29か所に表出され（22名中10名のレポート）、そのうち27か所は、「自己発信・パブリックスピーキング」のコードが付与された箇所で見られた。このことから、学生の「自信」は、「自己発信・パブリックスピーキング」に関連している可能性がある。

このアメリカのプログラムは、日本人が苦手とするパブリックスピーキング、発言力、自己発信力を強化することが目標の一つである。英語を使って人前でスピーチし、積極的に意見を伝える練習が、学生達の自信に繋がっているのではないかと考えられる。

4. 課題と展望

今回は、帰国後の学生の学びと成長のレポートを分析し、プログラム目標と照合させ、学びの関連性を調べた。その結果、学生の認知した学びは、プログラム目標と合致しており、また「自己発信・パブリックスピーキング」が学生の「自信」に関連していることが分かった。

しかし、ここからはプログラム目標の到達度、学びの向上、そしてプログラムの課題が見えない。例えば、プログラム目標の到達度に関しては、学生は留学中に自己アセスメントを行っており、各目標の達成度とそれを示す事例を定期的に振り返り記録している。その記録からは、留学期間中に到達度が全体的に高まっているのが分かるが、データは学生の主観に基づくものであり、成果分析に限界がある。また学生は、留学後にショーケースポートフォリオを作成し、成果物を提示しながら各ゴールの到達について記述するが、どこまで何を達成し、何を達成していないのかは明確でない。そこで今後はこれらの課題を踏まえて、目標とその到達度を具体化・明確化し、学生の到達度を明示できるようコースデザインの全体的な改善を行いたい。

参考文献

- (1) Deardorff, D.K.: “Demystifying outcomes assessment for international educators: a practical approach”, Stylus Publishing, LLC. (2015)
- (2) Kolb, D.A.: “Experiential Learning: Experience as a Source of Learning and Development”, New Jersey, Prentice Hall, Inc. (1983)
- (3) カッティング美紀: “短期留学プログラムにおける「意義のある学習」の実践: 留学におけるアウトカムの体系化と学生志向の教育デザインへの挑戦”, 異文化間教育, 41, 111-126 (2015)
- (4) カッティング美紀: “国際教育の学び質保証 - 本学の海外プログラムにおけるアセスメントと学習成果”, 大学教育学会誌, 38-2, 67-76 (2016)